

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 43 イチハツ ～

職藝学院

教授 渡邊美保子

イチハツは、中国原産のアヤメ科の宿根草です。草丈は40~50cmほどで、4月末から5月中旬に藤紫色の花を咲かせます。アヤメの仲間では一番初めに花が咲くので「一初」といわれています。径10cmほどの花が空中を舞うように咲きます。イチハツの見ごろは、枝分かれした花茎が最初に伸びた花茎の高さに追いつく頃です。2本の茎の先端に同時に花が咲く姿はとても華やかです（写真1）。



写真1 イチハツ。5月中旬。向かって右側の花茎が先に伸び、すでに1つめと2つめの花が終わり、3つめの蕾が開花したところ。向かって左側の花は、枝分かれした茎の先に咲いた1つめの花。花の下には2つめの蕾が見える。

イチハツは、ショウガのような太い根茎から刀のような葉を扇状に重ねながら伸びてゆきます。4月中旬になると、根元から伸びた1枚の葉の付け根から蕾が顔を出します（写真2）。蕾をつけた花茎は、1枚の長い葉に守られながら1日で10cmも伸びるのです。葉の高さを越える頃、蕾を包んでいた苞が割れて中からきっちり折りたたまれた藤紫色の蕾が顔を出します（写真3）。蕾は3日ほどかけて苞から飛び出して筒状に膨らみ、その後花びらがゆるんで開花します。

イチハツは、外側に3枚、内側に3枚の花びらを持ちます。外側の花びらは垂れ下がり、花びらの中央に鶏のとさかのような白い突起と濃い紫色の斑点や筋が付いています（写真4）。内側の花びらは、斜め上方向に開き突起や斑点はあり

ません。1つめの花が開くとその下では2つめの花の蕾が待っています。2つめの花は1つめの花が終わってから1日~2日後に開花します。1つめに咲いた花がカラカラに乾いて渦を巻いたような姿になると3つめの蕾はその隣で咲く準備をしています（写真5）。花は4日程でしぼみますが、枝分かれした花茎から3つの花が順番に咲くので2週間位は楽しむことができます。それぞれの花茎の1つめに咲いた花には楕円形の果実が付きます。花付きを良くしたい場合は摘み取りましょう。種子に送られる養分を根や葉の成長に使うことができます。

イチハツは、根茎が太く養分と水分を蓄えることができるため乾燥に強い宿根草ですが、西日はあまり好みません。花壇の東側で午前中の太陽の光が当たる場所に植栽すると良いでしょう。イチハツの葉は青みを帯びた黄緑色のためそれだけで美しく、4月から10月頃まで花壇の花々を引き立ててくれます。



写真2 蕾は薄緑色の苞に包まれている。茎を包む細長い葉の中には次の蕾が隠れている。



写真3 蕾を包んでいた苞の中から折りたたまれた藤紫色の花びらが突き出てくる。



写真4 外側の花びら3枚の付け根に白い突起がある。



写真5 1つの蕾には3つの蕾が隠れていて、1つずつ開花してゆく。